

## これまでの経過

近年、中海・宍道湖・大山圏域（以下「圏域」という）における、高速で走る自動車のための専用道路（以下、「高規格道路」という）ネットワーク整備を取り巻く環境として、国主導で「中海・宍道湖圏域道路整備勉強会」が設置され、整備方針、機能軸の方向性などが議論され、また、経済界では「8の字ネットワーク整備による効果分析検討会」が開催され費用対効果が検討されるなど、整備促進に向けた機運が非常に高まっています。

令和元年度に国土交通省が策定した「高速道路における安全・安心基本計画」での優先整備区間として選定された路線うち、山陰自動車道安来道路では米子西 IC から安来 IC まで、中国横断自動車道岡山米子線では蒜山 IC から米子 IC までの間で4車線化の整備が着実に進展しています。さらに令和3年度に境港出雲道路の一部である、松江北道路が都市計画決定・事業着手されるなど、圏域を取り巻く高規格道路ネットワークの姿は、大きく変わってきています。

これからの圏域の発展のためには、高規格道路ネットワークを将来にわたって最大限に活用し、地域の活力の向上につなげていくことが非常に重要です。さらに、2040年の圏域人口は53万人と推計されていますが、人口減少の時代であっても、この地域が持続可能な発展を図っていこうとしたときに地域間の移動・流通が自由自在に行える高規格道路ネットワークは、次の世代に残すべき必要な社会基盤だと考えます。「中海・宍道湖・大山圏域8の字ルート研究会（以下、「研究会」という）」は、有識者や関係行政機関を構成メンバーとして、中海と宍道湖を介して8の字につながる、高規格道路ネットワーク（以下、「圏域8の字ルート」という）をどのように圏域づくりに活用すべきかについて研究することを目的として圏域市長会が設置しました。検討にあたっては、計9回にわたり部会、研究会を開催し、産業、観光、市民生活といった各分野の地域の現状や課題を抽出し、圏域8の字ルート整備がもたらす影響等について幅広く意見交換を行いました。本報告書は、圏域振興ビジョンに掲げる圏域の将来像「水と緑がつながる 人がつながる 神話の国から未来につなげる ～あたかも一つのまち 住みたくなる中海・宍道湖・大山圏域～」の実現に向け、高規格道路ネットワークをいかした今後のまちづくりの方向性等について、研究会で検討した結果を取りまとめたものです。